

じて食をとることを得たり、旅客に對する鐵道院の注意監督、甚だ不充分なるは遺憾ならずとせず。(完)

春鳥畫談

汀 鷗

大膽にして細心なれ

有樂座の東西名人會に往つた。出席名人連の技藝は敬服すべきものであつた、舞臺の上に假屋を設け、金襴やら衝立やら、裝飾も立派で、太夫もかゝる處に居て演じてこそ、自尊心も起らう張合も出やう、誠に結構なものであるが、演者の背後の金襴の大きな曳手の取附けが、上下に二寸程も狂つてゐた、表面長押の釘隠しは二つばかり取れてゐた。

曾て京の祇園で都踊を見た。舞子の美しいは勿論の事、背景もまた美事であつて觀者を恍惚たらしめた、やがて一群の舞妓が表面の階段を登つてゆく時、不圖見ると、何れも其足袋の裏は眞黒であつたので、切角のイリュージョンは忽ち破られた。襪の曳手の狂ひや、釘隠しの破損、足袋の裏の汚れなどは實に些細なとであらう、藝術に酔ふ多くの人には恐らく氣もつくまい、乍併、世には比較的冷やかな態度を以て藝術に對する人も少なくはない、深甚なる注意は、繪の上に於ても殊に大切である、一の斑点もよくその畫の死命を制することがある、美しければ美しい調和、穢なければ穢なく調和してゐなければいけない、藝

術家は宜しく大膽なれ、しかも同時に細心なれ。

ほど

『あの方は程がいい』とは一部の社會でよく言ふことだ、『程』とは中庸をさすので『程のいい』といふことは繪の上にも肝要だ。近頃は、モット突込んで強く描けの、深刻の印象がなくてはいけないの、辛辣であれのないといふ註文もないではないが、それは別問題として、この『程』といふことを無視した出來損ひの繪を見るのが少なくはない。『描き足りない』といふ繪は、『描き過ぎた』といふ繪と共に『程』のよくないことだ。『程』のいい繪は、いつ見ても氣持がよい。展覽會場などでは、時に或は見世物の看板のやうな強烈な繪に蹴落されるかも知れないが、それは一時の事だ。

専門家と素人

専門家は畫面の要點に注意して骨を折る。素人は不必要の處を一生懸命にやつて、要點は忘れてゐる。

専門家はパレットの上の十色の繪具を百千万にも變化させて使ふ。素人は十色の繪具を使つて、僅かに二三の異つた色を出す。専門家は細部を捨て、置いて先づ大體に注意する。素人は一部分に苦心して大體を忘れてゐる。

専門家は頭で繪をかき。素人は手で繪をかき。

* * * * *